

令和2年度 学校評価結果報告書

学校法人いづみ学園
砂川第二幼稚園

当園ではこの度、令和2年度の砂川第二幼稚園学校評価として、教職員での自己評価及び学校関係者評価を実施いたしました。教職員一人一人が、自らの教育活動や日々の教育内容そして園運営の状況を振り返ることで、自分たち自身そして園全体を見つめ直す機会となりました。

また、それぞれの評価結果について、職員一同で話し合うことにより、教育活動の成果や今後の課題、改善の方向性などを明らかにすることができました。この自己評価及び学校関係者評価の結果を真摯に受けとめ、更なる教育活動の充実、教育環境の整備、教職員の資質向上に努めてまいります。

I. 教育目標

園是「あかるく・すなおに・すこやかに」を教育目標に掲げ、整えられた環境の中で教育を行い、集団生活で子ども達一人一人の発達に応じた主体的活動を通して総合的に指導をし、個性を重んじ、身も心も健全にのびのびと発達させて美しい性情を培い、ご家庭の教育と相俟って小学校教育を受けることのできる様に基礎をつくります。

II. 今年度の重点目標

評価項目に沿って自己点検・自己評価を実施することによって、教職員自らが客観的に自園を見る目を養い、施設の改善、教育内容の改善に主体的に取り組んでいくことを重点項目とする。

- *心身共に健やかな成長を願い、園児自らがよく考え、行動できる力を養う
- *教職員の協力や連携体制を強化し、きめ細やかな教育が出来るように努める
- *コロナウイルス感染症に対し、どのように向き合い教育を進めていくべきか

Ⅲ. 評価項目と取組み状況

評価項目		取組み内容	取組み状況	
1	教育方針・目標	教育目標が反映されるよう保育目標を定め、園の方針や目標について、保護者の理解が得られるよう取り組む。	A	<ul style="list-style-type: none"> よく話を聞き、考え、様々な経験を生かして自ら行動できる子。思考力の高い子を育てる事を目標とした教育に取り組んでいる。 年間、月、週ごとに学年別の保育目標を定め、その目標を達成するための活動などを「園だより」「学年だより」に載せて、保護者の方にお伝えしている。
2	教育課程の編成	教育目標である「明るく素直に健やかに」が日々の教育活動に反映されるよう、それらの各領域の示すねらいや内容を結びつけて、教育課程を編成していく。	B	<ul style="list-style-type: none"> 領域「人間関係」の内容である「他の人々と親しみ、支え合って生活する為に思考力・自立心を育て、人と関わる力を養う」「世界に通用する大人となる」ということに重点を置いて教育目標を達成する基盤としている。 現代の社会状況に応じた指導計画が作成されているか、各時期にふさわしく細やかな保育がなされているか、教職員間での話し合いと見直しを必要に応じてしている。 個々の発達状況に反映されているかを定期的に確認する。
3	指導計画の作成と評価	前年度の幼児の状況、社会状況を考慮しながら評価・反省をし、次の保育に生かしていく。	A	<ul style="list-style-type: none"> 年間指導計画、週案を作成する際にはその年の実態に応じた内容となっているか学年を越え話し合っている。 一方的に教えるだけの受動的教育ではなく、小学校入学後の主体的学びへと繋げることができる教育内容となるよう作成している。 週単位での各領域の目標達成度を自己評価し、次の保育に繋げている。
4	教育環境の構成	幼児の発達段階に即した遊具や用具、素材などを用意している。異年齢との関りが持てるよう縦割り保育を実施している。	A	<ul style="list-style-type: none"> 農園で旬の野菜や果物の収穫を経験することで、収穫の喜びを味わい、食物への感謝の気持ちの大切さを教え、現在問題となっている食品ロスへの関心にも繋げられるようにしていく。 その日の計画、具体的な内容を、イラストなどを入れながらわかりやすく掲示し、いろいろな活動に興味を持って取り組めると共に予測をたてて行動できるよう促している。 異年齢との関わりの場を持つことで、思いやる・助け合う気持ちを育む。 机と椅子を日常的に使用することで、椅子に座り机に向かうという事を自然な事とし、小学校へ入学した後、勉強への入りの流れをスムーズに出来るようにしている。

5	指導とかかわり	<p>幼児の気持ちに共感しながら、一人一人の思いを把握し、良さを認め、褒めてあげることで自信を持ち、目標や意欲を持てるようにする。</p> <p>自ら考え、工夫する事ができるよう見守る。</p> <p>年齢や個々に応じた関わり方をする。</p>	B	<ul style="list-style-type: none"> ・安心して園生活を送れるよう、担任以外の職員も、気付きがあった時は声掛けをする。 ・一人一人の個性や良さを伸ばし、それぞれの目標が達成できるよう援助している。 ・当番活動を通してお互いの存在の必要性に気付き、人の役に立つことの喜びにつなげる。 ・年齢に応じた絵画制作、教材、体力測定などを用いて、発達段階にあった指導をするように務めている。 ・感情ではなく思いやりと愛情のある、教育者としての言葉かけを、意識する様に心掛ける。
6	教職員同士の協力・連携	<p>幼児について常に教職員間で話し合い、クラス、学年を越え園全体で、情報を共有していく。</p>	A	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児のことについて、教師間での話し合いを密に行い、アレルギー等については職員全員が把握出来るよう書き記し、情報共有に努めている。 ・日々の体調など職員が気付いたことや、保護者からの連絡は速やかに伝えている。 ・その場で配慮が必要な時には、担任関係なく近くにいる教師が素早く対応している。 ・保育に関して、一人で悩みを抱え込まないよう教師間でお互いに相談し易い環境作りを心掛けている。
7	研修・研究への取組み	<p>現代における子育てに対しての問題、配慮が必要な幼児に対する保育のあり方について、専門機関と連携を図りながら、研修研究を行っていく。</p>	B	<ul style="list-style-type: none"> ・配慮が必要な幼児に対する配慮の仕方・接し方などについて、外部研修や書籍などを通して学んでいる。 ・必要に応じて専門機関に相談する等、より専門的な知識を得られる様取り組んでいる。
8	安全衛生への配慮	<p>清潔にすることの必要性を理解し、正しいうがい・手洗い・消毒の仕方を具体的に示す。</p> <p>感染症についての様々な知識を深める。</p>	A	<ul style="list-style-type: none"> ・正しい手洗いやうがいの習慣が身に付くようポスター掲示や紙芝居の使用、定期的なうがい・手洗いの方法を確認し、マスクや消毒の必要性を幼児に分かりやすく伝える。 ・園内及び手指の消毒をし、感染防止への意識と対策を高め、園内に菌を持ち込まないように取り組んでいる。 ・感染症が出た場合の対策、早期終息への対応を再確認し、正しい方法を学びんでいる。 ・感染症マニュアルを見直し、職員間で理解し合うと共に、保護者の方とも一層の共通理解を得られるように取り組んでいる。
9	安全管理体制の整備①	<p>自然災害発生時の対応について、全教職員が共通理解を持てるよう取り組んでいる。</p>	A	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的に避難訓練を行い、緊急時対応手順の理解を熟知しておくよう取り組んでいる。 ・登降園時に災害発生した場合の対処方法も、定期的に確認している。

10	安全管理体制の整備②	事故の発生を未然に防ぐために、園内の危険箇所や危険な遊び方などについて気づきを伝え合い、教職員間で話し合う仕組みが機能している。	A	<ul style="list-style-type: none"> • 毎日の掃除をする中で、危険なところを意識・確認・改善するようにしている。 • 遊具の下に安全マットを敷き、遊具で遊ぶ時は落下等防止の為に、子ども達から目を離さないようにするなど安全に遊べるための配慮をすると共に、遊具の安全な使い方を指導している。 • 常に施設・設備・遊具の安全点検を行い、事故の発生を未然に防ぐことができる体制を強化している。
11	安全管理体制の整備③	施設のハード・ソフト両面から、適切な防犯体制を整えている。	B	<ul style="list-style-type: none"> • 防犯カメラを設置し、門の施錠、来園者はモニター付きインターホンで確認し防犯体制を整えている。 • 園外に出る場合は、防犯ベルを持って行く。
12	安全管理体制の整備④	児童虐待の発見やその対応等についての手順や方法を理解している。	A	<ul style="list-style-type: none"> • 登園時や着替えの時に視診を行い、衣服や身体の衛生状態・子ども達の様子を確認するようにしている。 • 児童虐待についての外部研修、専門機関と連携を取るなどし、発見のポイントや具体的対応方法などの理解をさらに深める。 • 見た目だけでなく情緒面でも虐待がないか注視している。
13	保護者への協力と支援	保育参観や懇談会などを開き、子どもについて、保育について、家庭でのあり方について、共通理解を得るよう取り組んでいる。	A	<ul style="list-style-type: none"> • 保育参観や個人懇談会、連絡票を通して園での様子やご家庭での様子を話し合い、共通理解を持てるように取り組んでいる。 • 日常では、日々の出席ノートや電話連絡を活用し、保護者の方が相談しやすい環境作りを心掛け、連携が取れる様に取り組んでいる。 • 月一回学年だよりを発行し、行事や課題の結果だけでなく、そこに至るまでの経緯を知らせ、頑張りを家庭で認めてもらえる様にしている。

【評価の基準】

A	十分達成されている
B	達成されている
C	取組まれているが、成果が十分でない
D	取り組みが不十分である

IV. 今後取り組むべき課題

1	指導計画の作成・評価の充実	指導計画が幼稚園教育要領に沿った物で、それぞれの発達の時期に必要な経験を長期的に見通し、一人一人の子ども発達に反映され、幼児自らが意欲を持って取り組める計画であるかを再確認する。 また、地域や現代の実態に応じた指導計画が作成されているか見直しを行う。
2	保育の質の向上	保育の向上に向けた教職員間の話し合い・情報共有の機会を充実させていく。指導案の確認やクラスの状況だけでなく、細やかな所まで学年を越えて共有連絡し合う。
3		外部研修に参加するだけでなく園内研修にも力を入れ、職員一人一人の質の向上を目指し、現場で実践できるように取り組む。
4	保育環境の充実	考える事・表現する事を通して、知能全般の発達を促すとされている知育玩具。自由に使え、自由な発想で制作することのできる材料のさらなる充実を検討していく。 音楽教材に触れる場を増やし、情操教育に必要な環境を一層充実させる。
5		園児たちのたての繋がりを大切に、異年齢による関わり方を楽しめるような活動など、工夫した取り組みを一層充実させていく。
6	保護者との連携の強化	ご家庭の協力が必要な場合は、園としての教育的観点と、個々の家庭における子どもへの関わり方や教育方針との相互理解が得られる様、より具体的に話し合っていく。
7	防災対策の強化	避難訓練の実施時、全員で避難経路や手順を確認し合う中で、自分の担当する事がスムーズに実施できるか、抜けている事は無いかなど再確認する。 登園・降園時に地震が発生した場合のマニュアルをより確かな物にし、保護者にも周知していく。
8	安全管理体制の強化	感染症等に対して予防の意識を高めるよう取り組む。 コロナウイルス感染症に対しては、対策を強化し、保護者の方にも理解と協力が得られる様機会があるごとに伝えていく。
9		日常的に施設・設備・遊具の安全点検を行い、事故の発生を未然に防ぐことができる体制を強化する。
10		専門機関との連携を通して不審者侵入時の対応方法についての知識を一層深め、園全体で把握しておく。
11		児童虐待について、外部研修や専門機関と連携を取るなどし、発見のポイントや保育上での注意点、具体的対応方法などの理解をさらに深める。 「子どもの人権」という課題に対しても、今後取り組んでいく必要がある。

V. 学校関係者の評価

活気あふれる子ども達に、学年・クラスの垣根を越え、教職員全員が言葉掛けをし、共通の認識を持ち関わる姿に温かさを感じられます。

今後も、保護者とも連携を取り、園全体で情報共有し、意見交換しながら子ども一人一人に合った保育をし、心身共に成長できるように努めていってほしいと思います。

また、日々の保育の中での気付きを大切に、目の前の子ども達に寄り添いながら課題を持って保育が出来るよう、園内研修や研究を深め、教員そして保育のさらなる資質向上を目指してほしいです。